東京都社会福祉事業団

事業団通信

Vol.4
平成28(2016)年
1月発行

千葉福祉園　工芸科共同作品「富士山」

理事長挨拶

社会福祉法人
東京都社会福祉事業団
理事長　**白石 弥生子**

あけましておめでとうございます

今年が皆様にとって輝かしい一年であることを願っております

昨年は東京都社会福祉事業団にとって、大きな一歩を踏み出した記念すべき年でした。日野療護園の自主運営を始めたことです。事業団の固有職員のみによる経営は、昨今の福祉業界の人員不足の影響等厳しい状況もありますが、日野療護園全職員のがんばりと利用者の方々の理解により今日まで何とか順調な経営を行っています。私も日野での実践がこれからの事業団の財産になっていることを頼もしく思い、今年も日野の職員とともにがんばろうと決意をあらたにしているところです。

また昨年３月に事業団の中期経営計画を策定しました。日野療護園に続いて平成30年４月から希望の郷　東村山（仮称）を事業団が経営することが決まり、概ね10年後には一般の民間社会福祉法人となるという決意のもと、その道筋を全職員に示したものです。

今年はこの中期経営計画に沿って、昨年の大きな一歩をさらに力強い歩みにすべく、「利用者本位のサービス提供」「公的役割の継承」「地域福祉への貢献」という経営理念のもと、積極的に取り組んでいく所存です。特に地域福祉への貢献については、これまで以上に地域のニーズに敏感になり、事業団施設の力をそれぞれの所在する地域でさらに発揮するには何をすべきか考え、実行していかなければならないと思っています。

今年も事業団職員一丸となって、東京の福祉の発展に力を尽しますので、関係の皆様のご指導ご協力をお願いして、新年のあいさつといたします。

東京都社会福祉事業団　経営理念

1　利用者本位のサービスを徹底します。
2　都立施設が担ってきた公的な役割を継承します。
3　地域と連携し、地域福祉の向上に貢献します。

職場特集

東京都 千葉福祉園

設置年月：昭和18年2月
所　在　地：〒299-0241　千葉県袖ケ浦市代宿８番地
事業内容：障害者支援施設（運用定員390人）、福祉型障害児入所施設（運用定員48人）、短期入所事業（定員６人）、共同生活援助（定員７人）

http://chibafuku.or.jp
千葉福祉園　検索

安全と安心を第一に、利用者の皆様お一人おひとりが生きがいを感じられる豊かな毎日を送れる支援を目標としています。

《 平成 27 年度の運営方針 》

1　利用者本位の支援の徹底
利用者の高齢化・障害の重度化や行動障害を有する利用者の増加に適切に対応するため、医師、看護師、心理職、栄養士等の専門的見地からの所見を得た上で、サービス管理責任者による個別支援計画を策定し、個々の状況に応じた質の高い支援を提供する。

2　地域生活移行の推進
地域生活への移行を希望する利用者に対し、保護者の理解と協力を得ながら、関係機関と連携して積極的に移行を推進する。また、グループホーム「つばさ」の安定的運営及び新たなグループホーム設置に取り組む。

3　職員の資質の向上
良質なサービスを継続的に提供するため、OJT や職員派遣研修等を推進して職員の資質向上に取り組む。また、全職員を対象として「支援姿勢・方法等のセルフチェック」を実施し、職員倫理綱領と人権ガイドラインの周知徹底を図る。

千葉福祉園の課題

課題の第１は、 高齢化、障害の重度化が進み介護の必要性が高い利用者の方への対応です。

課題の第２は、 都派遣職員、事業団職員の混成チームの中で、知識や経験の継承と全体のレベルアップ、特に事業団職員の管理監督者の早期育成という人材育成です。

課題の第３は、 広い敷地に多人数の利用者を抱える都立の中軽度施設である当園の今後のあり方です。

**課題の解決に当たり忘れてならないことは、
我々の仕事は、利用者の皆さんの安全と安心を第一に、
生きがいのある、充実した生活が送れるように支援を行っていく
ということです。**

けやき寮
大川　洋平さん（3年目）

Staff Interview

介護技術研修

今回、介護技術研修の園内講師を担当するにあたり、利用者の方々の生活がより安楽で快適なものとなるよう、また支援者自身の負担軽減にも活かされるよう計画しました。また、寮内での業務が円滑に行えるよう、介護の理論と個別場面ごとの動作や考え方についても学習しました。

当園には高齢化する利用者に初めて関わる職員も多く、寮内の業務に不安を抱えているため、すぐに実践できる介護技術の方法とヒントや、職場に対する緊張や不安、業務での悩みなどの相談、アドバイスを行いました。

私自身も新人時代、業務に対する不安や心配があり、先輩職員の的確なアドバイスや励ましに育てられたと感じております。今の自分があるのは先輩職員のおかげであり、この御恩を新しい職員へ伝えたく、その思いが新たな人材育成へとつながれば良い職場環境が作れると思っております。今後も介護技術を通じて、新たな人材育成に励んでまいります。

また、私たち介護福祉士の理念の一つに、後継者の育成があります。その理念を守りたく、今回の講師を引き受けさせていただきました。今後も介護福祉士の理念を千葉福祉園で活かせれば幸いに思います。

ヘルパー講師からオムツのあて方指導

安全な支援に向け車椅子操作法の確認

「介護寮」設置の取組

千葉福祉園では、利用者の高齢化（平均年齢 58.8 歳）と障害の重度化（障害支援区分５及び６が全体の半数以上を占める）、さらに建物・設備の老朽化・利用者居室の３人部屋の解消のため、既存４寮について職員配置を手厚くし、常時２人夜勤体制とする「介護寮」へと移行し、利用者支援の充実を図ることとしています。

昨年７月には、その第一歩としてさくら寮を休止し、まつば寮を介護寮へと移行しました。今後も利用者の状況に合わせ、適宜対応を行っていきます。

夏フェス“2015”を企画、開催しました。

園の新しいイベントとして、夏イベント「夏フェス2015」を、昨年７月18日に開催しました。ボランティア「ニコニコバンド」さんのご協力により、利用者の皆さんの好きな音楽イベントとして、利用者・ボランティア・職員で大いに盛り上がりました。当日は、利用者・職員合わせて 200 名を超える参加があり、参加者には光るブレスレットとオリジナルうちわを配布しました。暑かった昨年の夏、どこかで活躍してくれたことと思います。また、希望者にはっぴを着ていただき、お祭り気分を盛り上げ、イベント後半には、照明を落としてキャンプファイヤーを模した手作りの光のオブジェやちょうちんに明かりを灯し、「夜祭り」の雰囲気も演出して、皆さんに楽しんでいただけました。これからも、利用者のみなさんの余暇の充実を図り、笑顔を増やせていけたらと思います。

わかしお寮
岸並　萌絵さん（7年目）

クラブ活動ご紹介

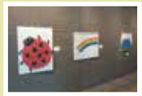
利用者が仲間と一緒に趣味やスポーツを行い、その楽しさや喜びを得ることを通して、心身のリフレッシュを図り、充実した園での生活が送れるようにクラブ活動を実施しています。利用者の皆さんに、スポーツや芸術を楽しんで頂く為、サッカークラブ、バドミントンクラブ、美術クラブ、生花クラブがあります。全寮の利用者の皆さんが参加でき、また、地域のボランティアの方々にご協力して頂いて運営しているクラブとして、民謡クラブ、音楽クラブ、ビデオクラブ、スポレククラブがあり、地域との繋がりを深める場として、盛り上げています。

今後は、更に利用者の高齢化が進むことが予想される為、クラブ活動の内容や日中活動のあり方を検討し、現状の利用者の状況やニーズを踏まえて、将来どのようなサービス提供ができるか考えていき、職員も利用者一人ひとりへ寄り添えるように知識や支援技術を磨き、支援のプロフェショナルになれるように努めていくことが必要であると感じています。

ふじみ寮
岡田　秀樹さん（3年目）

東京都千葉福祉園の１年

April 4月
May 5月
June 6月
July 7月
August 8月
September 9月
October 10月
November 11月
December 12月
January 1月
February 2月
March 3月



● お花見会（4 月）
「優れた美人、高貴、清純」との花言葉を持つ園のメインストリートを彩るソメイヨシノは、今年のあいにくの雨のしずくでも輝く桜、千葉福祉園の桜は美人揃いです。
ステージでは、袖ケ浦高校ブラスバンド演奏と市原天翔太鼓の演舞、しいの木特別支援学校の先生によるバンド演奏等、迫力と臨場感で会場が包まれました。

● 茶摘み（5 月）
毎年、恒例の園の茶畑での茶摘み。新芽を一つひとつ丁寧に摘んで、味わい深いおいしい新茶を作ります。好評につき売り切れ御免。

● 日中活動参観（6 月）
今年度１回目の日中活動参観日。保護者と一緒に作業したり、懇談会、利用者作品の販売も行います。

● 夏フェス 2015（7 月）

● 児童宿泊旅行（8 月）
河口湖の富士緑の休暇村へ。サファリパークで動物と触れ合い、夜は花火大会。翌日、富士急ハイランドでは、暑い中、長蛇の列を並んで人気のアトラクションで思い出作り。

● おかのうえ図書館作品展（9 月）
折鶴モザイクアート「夢のハワイに行きたいな」、毛糸を使った力強い作品「太陽」、ステンシルカレンダー、絵皿「富士山」など。
利用者さんの特性を生かし創意、工夫を凝らした作品には「素敵、心に残った、どれも大作で２度見に来た」など好評でした。

● 園まつり（10 月）
「みんながヒーロー（主役）」が今年のテーマ。ちーばくんに加え今年は、ご当地ヒーロー「鳳神ヤツルギ」も登場し活気が倍増。袖ケ浦高校ブラスバンド部の迫力ある演奏がメインストリートを行進。舞台では、市原鼓蝶会の素敵な手踊りと恒例の利用者カラオケ大会が開かれ、個性豊かな衣装を着た「ヒーロー」が、プロ顔負けのパフォーマンスを見せてくれました。

● 日中活動参観（11 月）
今年度２回目の日中活動参観日。保護者と一緒に作業したり、懇談会も行います。おかの上図書館作品展表彰式も実施しました。

カラオケルームがオープン！その名は「ニコニコルームスタジオさくら」

● 移動水族館・東京都葛西臨海水族園（12 月）
うみくる号といそくる号がやってきます。魚に触れるコーナーもあります。

● クリスマス会（12 月）

● 新春大園芸会（1 月）
「申（さる）年だよ！本気、やる気、モンキー」
平成28年１月30日（土曜日）開催
獅子舞や猿回しなどの演目を行います。ぜひ遊びに来てください♪

● しいの木特別支援学校卒業式（3 月）
児童寮の中学、高校生が通う隣接するしいの木特別支援学校の卒業式が、行われます。生徒たちの旅立ちの日です。

職場特集

東京都 勝山学園

設置年月：昭和21年8月
所在地：〒299-2115　千葉県安房郡鋸南町下佐久間1469
事業種別：指定管理事業 第1種社会福祉事業児童養護施設
定員：64人

http://www.katsugaku.org/
勝山学園 検索

子どもと保護者のニーズを捉えた支援

家庭的寮運営を推進し、児童の意見を取り入れながら夏季錬成キャンプ等の行事や学習指導を行っています。

勝山学園は海、山に囲まれた、自然豊かな場所に建っています。自然に囲まれた環境の中で、子ども達が学園から巣立ち、自分の力で歩んでいけるよう、日々の支援をしています。

本園は、小規模な部屋単位による家庭的養護を基本としながら、２歳から高校生までの児童が一緒の寮で生活する縦割り養育だけではなく、各年代に分かれて社会性や自立性を育むために横割り活動をしています。事業団児童養護施設の中で横割り活動として夏期錬成を行っている事業所は勝山学園だけであり、横割り活動を通じて子ども達は多くの事を経験していきます。

横割り活動の様子

キャンプ

お楽しみ会

進路懇談会

《平成 27 年度の運営方針》

（1）利用者本位のサービスの徹底

①家族再統合にむけた取り組み

家族再統合に向けて、親子宿泊、家庭訪問を実施し、保護者との交流が困難な児童にもケース担当者が個別宿泊や外出を行うなど、家族や児童の状況に合わせ、きめ細やかな対応を図っています。

勝山学園の事例をもとに児童相談所とのケース検討会を実施

②児童相談所や学校との連携

児童相談所との連携を密に行い、家庭状況の把握、利用者ニーズの充足を図り、より具体的な将来への展望を構築していきます。

また学校においても担当職員はもとより、園全体として情報共有を図り、学習面、情緒面、進路指導などにおいて有効な支援体制を協議、実行しています。

（2）人材育成と運営体制の強化

①職員一人ひとりの支援能力の向上

②チームワークの強化

職員自身やチームが抱える課題に対し、研修で得た知識や技術を照らし合わせ、ベテラン職員を交えたディスカッション等を行うことで、気付きや、スキルアップ、スパイラルアップの機会とするとともに、チームワークの強化を図っています。

（3）地域との連携強化

長年培った地域との良好な関係を大切にしながら、地域社会の一員としての誠実かつ責任ある活動に努め、学園行事への招待、災害時の相互応援や地域のスポーツイベント、祭礼開催時の施設開放と児童の参加により、地域との良好な関係を築いています。

Staff Interview 勝山学園の食育を通じて

「食べることは生きること」を伝え、毎日の食事を大切にできるようにしています。
食べることは、一生続くのですから…

管理係（栄養士）
岡本　正美さん
（9年目）

子供たちに対し家庭的な養護を提供する上で、食事はもっとも重要なもののひとつです。そのため、子ども達の個々の背景や発達に寄り添い、日常の場面から食事に関しての体験を増やしていくことが大切だと考えます。勝山学園では、様々な職員が協力しあい、日々の食事を丁寧にあつかうように心がけています。

子ども達と福祉職が、協力し合いメニューから調理まで行う「自主調理」は、子ども達の好みが大きく反映され、ボリュームあるメニューが多くみられます。子ども達と一緒に、調理員が、メニュー作りから買い物、調理まで一緒に行う「出張調理」は、調理員のプロの技を見ながら、調理方法を教えてもらいながら行います。

また、子ども達の自己肯定感を育む一つとして、誕生日リクエストを実施しています。この子、こんな食材が好きなんだ、といった新たな発見やバランスを考えたメニューを書いてくる子、このメニュー何？とパソコンを駆使して調べなければいけないメニューを考える子など、多種多様です。「○○さん、誕生日リクエストメニュー考えてね」と記入用紙を持っていくと、「自分はこれが良い」「今度は、これを書くんだ～」と、他の子からもたくさんの反応が返ってきて楽しみにしている様子をうかがうことができ、嬉しく思います。

１年に一度のお楽しみ♪
「新鮮な海の幸たっぷり海鮮丼」

自立に向けた生活訓練へは、積極的に携わってます。一人一人へ、栄養についてはもちろん、食べることの大切さを話しながら、一緒に献立を考え、一人暮らしでの買い物のコツなども指導します。時には一緒にスーパーへ行き、良い野菜の選び方や、肉の種類の違い、調理しやすい魚についてなどを話したり、インスタント食材やカット野菜の使用など、一人暮らしで活用しやすい食品選びについての指導を行うこともあります。献立を考えた中で、作ってみたい料理を選び、調理を実際に行います。卒園後、一人暮らしをして食事をどれぐらい自分で作るかはわかりませんが、食事の大切さを伝えていくことを心がけています。

食育を通じて、地域への協力を

子ども達の通う小学校で、学校栄養職員と共に、特別支援学級の子ども達への食育授業と調理実習へ参画しています。

学校へ足を運ぶことで教職員と緊密な連携体制を深めることができ、継続して実施することで地域の子ども達やその保護者とも顔見知りになれる貴重な機会となっています。

授業風景
「カレー星人と一緒にカレー作り」
給食センター栄養士と一緒に台本、イラスト資料などを用意しました。

にんじんクイズ
ビタミンＡの文字を横にしてみると…体の一部に似ている？

「合同横割り」から学ぶ
～自立にむけた支援を目指して

私は勝山学園に入職して３年目になります。現在は寮のローテーション業務を行いながら、園全体の中学生の学園生活に対する意見の集約や夏季錬成の計画、進路指導などを行う中学生横割りの担当をしています。

進路指導では、将来の夢を持って生活をしている子もいれば、なりたい自分を探し途中の子もいたりと様々です。

ほとんどの児童が高校進学を目指す中、高校選択の仕方、その先にある就職をして自立するというゴール地点を見据えた指導ができるように心掛けています。

また、中学生から高校生になるにあたり、高校生横割りとタイアップし、中高生合同横割りを行っています。合同横割りでは、高校生活の情報や中学生のうちにしておいた方が良い事、就職活動についての取組み等、現役高校生から生の声を聞けることもあり、中学生は真剣に耳を傾けています。

大人も子どもも悩む事は多々ありますが、中学生、高校生という大切な時期を無駄にしないように、自分達の立ち位置を確認しながら、子ども達と一緒に歩んでいければと思います。

養護係　楓寮担当
鈴木　悠紀さん（3年目）

クラブ活動のご紹介

勝山学園には、フットサル、ピアノ、琴、習字、花ボランティアクラブの５つのクラブが活動しています。職員や地域の講師の方と共に楽しく活動をしています。

東京都勝山学園の１年

長寿会との交流会（5月、10月）
地域のお年寄り（長寿会）の皆様と小学生がグラウンドゴルフやビンゴを行い、交流を行う会です。

鋸南ヒルズマラソン（6月）
「鋸南ヒルズマラソン」は勝山学園を会場として開放し、地域交流をしています。高校生はクロークの手伝いをしています。もちろん、学園児童、職員も走ります。

海水浴（7月）
海に近い地域を利用し、寮ごとに海水浴に行っています。入所してくる児童の中には初めて海に入ったと言う子も珍しくなく、いい経験ができています。

納涼大会（8月）
勝山学園大イベントの一つ、納涼大会です。地域の方も多く参加してくださり、毎年賑わいを見せております。職員は全員おそろいのスタッフＴシャツを着用し、チーム勝山として、行事運営をしていきます。

職員は全員おそろいの
オレンジ色の
スタッフＴシャツを
着用しています！！

左から
鈴木　綾菜さん（6年目）
和田　照世さん（都派遣職員）
小汐　郁子さん（都派遣職員）

地区祭礼（7月、10月）
7月 10 月と年２回行われる地域の祭礼です。綺麗に飾りつけをした山車と力強いお囃子で子どもたちも楽しんで参加しています。

クリスマス会（12 月）
サンタクロースは地域の「おやじの会」の皆様です！

正月行事（1月）
親子交流のできない児童を対象に毎年スキー旅行に行っています。

卒園を祝う会（3月）
毎年３月に行われる卒園を祝う会です。出し物やバンド演奏で巣立ちをお祝いします。

April 4月
May 5月
June 6月
July 7月
August 8月
September 9月
October 10月
November 11月
December 12月
January 1月
February 2月
March 3月

取組の紹介

人材育成の取組

事業団では、各施設、職員の取組や支援ノウハウを共有し活用することにより、専門性の向上を図ることや、職員としての視野拡大及び職員間の交流活性化等を図ることを目的として、各施設で連携・協力の下、施設間交流研修や合同研修等の取組を行っています。

また、事業団が将来にわたって質の高いサービスを提供し続けていくために、事業団施設において培ってきた高い利用者支援の技術・ノウハウをベテラン職員から継承する取組を進めるとともに、高度なノウハウや専門的な支援技術について、事例研究発表会や、外部団体が主催する会議等を通じて紹介するなど、外部に積極的に情報発信を行い、東京の福祉水準の向上に寄与します。

施設間交流会

「各園における服薬の現状」～よりよい支援につなげるために～

9月29日、石神井学園において、事業団児童養護施設6施設の職員による施設間交流会が開催されました。昨年から始まった事業団の取り組みで、各施設における取組を職員間で情報交換・共有し、児童へのよりよい支援を目指していくことを目的とした会です。

今回は、「各園における服薬の現状～よりよい支援につなげるために～」というテーマで行い、各施設から5～6名の職員と看護師が出席し、50名ほどが集まりました。

まずは、各施設から児童の服薬に関する情報の発表を行いました。服薬をしている児童数や内服薬が病院で処方されてから、園における保管や管理方法、誤薬等の事故に関するインシデントレポートの現状について等の発表を行いました。

各々が各施設の取組を確認し、全体で意見交換を行いました。看護師との連携、誤投薬を防ぐ工夫、投薬に関して苦労している点、インシデントレポートの活用方法など、各園から様々な意見が飛び交いました。

この交流会では、石神井学園嘱託医の齋藤文洋先生も同席してくださり、各施設間の意見交換の時間に先生が適宜アドバイスをくださいました。最後に、齋藤先生から「子どもたちが飲む薬について」のミニ講義がありました。職員からは、子どもが内服している薬についてより深く知ることができたとの意見がありました。

この会に参加した職員からは、「他施設との情報・意見交換ができたことで、新たな発見や様々な気付きに繋がった。」「非常に有意義な交流会であった。」との感想が多くありました。他施設の職員との交流によって、横のつながりができ、各施設でよりよい支援を目指すきっかけ作りになったことを嬉しく思います。

事業団児童養護施設千葉地区ブロック研修

専門性強化研修「子どもと関わる援助者として」～境界線を学ぶ～

平成27年10月13日、八街学園において、徳永桂子先生をお招きし、「子どもと関わる援助者として～境界線を学ぶ～」というテーマでご講演いただきました。

当事業団児童養護施設には、生い立ちの影響から不登校や反社会的行動などを起こしてしまう児童や、発達障害など、様々な課題を抱え対人関係もうまくいかない児童が多く入所しています。心と身体の距離、感情、アタッチメント、性教育の面から児童の対人関係を築く力を育て社会性が身に付けられるよう職員の支援技術の向上を目的として研修を実施しました。

今回の研修で取り扱ったのは、「境界線」です。境界線とは、からだの面でも、こころの面でも、自分を守るための距離感のことをいいます。自分自身が確立されていない児童に対し自分が決める境界線を考えていくために「サークルズ」というプログラムを教えていただきました。

《講師紹介》
徳永　桂子　氏
性教育ファシリテーター・思春期保健相談士・CAPスペシャリスト
障害のある子どもやおとなとその支援者、児童養護施設の子どもや職員、また保育所・幼稚園から高校の子ども達への性教育授業や研修・相談、性教育のベースとなる境界線ワークショップと多数開催。
著書、「からだノート」（単著）「家族で語る性教育－私たちの出前講座」（共著）「人間と性の教育シリーズ」（共著）他

人間関係を学ぶサークルズ

サークルズとは人間関係の距離によって、どのような人がどのサークルに位置し、どのような関係や感情や接触を持つのかを具体的に色分けをして表すものです。そこで重要なのは、対人関係の色分けを決めるのは自分自身であるということです。そして、このプログラムを子どもと関わる大人が理解し支援していくことで、自尊感情や尊重性や感じる力を育て、自分を守ることや人間関係を良好に育むことが出来るようになっていくのです。

全国社会福祉事業団協議会「実践報告・実務研究論文」佳作入賞

「地域で豊かに暮らすための対人関係学習会の取組」～合言葉はプライベートとパブリック～

七生福祉園の心とからだの育成委員会の活動内容をまとめた報告「地域で豊かに暮らすための対人関係学習会の取り組み」が、全国社会福祉事業団協議会で実施する実践報告・実務研究論文において佳作を受賞し、10月23日に開催された全国社会福祉事業団大会で表彰されました。11月6日には、白石理事長から心とからだの育成委員会メンバーの職員に対し、全国大会終了後に送られてきた表彰状及び副賞が授与されました。

（左から御代田課長、白石理事長、小淵　官幸さん、中里　拓馬さん、蒲谷園長、林課長）

1　取組の背景

七生福祉園児童課（福祉型障害児入所施設）においては、児童福祉法の改正を受け、20歳までの地域移行が加速度的に進んでいます。施設から地域へ、学校から社会へと二重の社会参加・自立へのプロセスと支援を必要とする利用者がたくさんいます。

2　課題

就労支援や地域移行のアフターケアーを続ける中で、対人トラブルは、就労やグループホームの生活の継続そのものに、大きく影響する課題のひとつであることが、明確になってきました。

3　取組の目的

心とからだの育成委員会では、平成21年度から性教育を中心に本人学習会を続けてきました。平成26年度からは、アフターケアで出会う利用者の失敗も踏まえ、目標を対人関係全般の改善に修正拡大して学習会を実施することにしました。

4　学習会の概要

学習会は、東京都心身障害者福祉センター地域支援課の助言を受けながら、実施しました。プライベートとパブリックを合言葉に、スライド学習･若手職員と利用者によるロールプレイ、確認のためのアンケートの三部構成としました。スライドは、具体的な場面を数多く用意しました。またロールプレイでは、トラブルの場面で職員が良い例と悪い例を演じ、利用者は良い例を演じて皆から評価されることを大切にしました。高校生を中心に肯定される行動について学ぶ場となり、拍手の続く、楽しい学習会でした。

5　効果

プライベートとパブリックの違い、パブリックの場はルールがあることを、以前にも増して日常生活の中で意識するようになりました。パブリックの場である児童遊園（園庭）の約束を皆で決めたり、不快な思いを職員に相談するなどの変化がみられました。

6　まとめ

一人ひとりが大切な存在であることを自覚できるように、講師と職員と利用者が、一緒に試行錯誤しながら実施した学習会です。今後も、職員と利用者で工夫しながら展開していきたいと考えています。

平成27年度東京都社会福祉事業団 事例研究発表会の開催

当事業団では、職員の専門的能力を高めるとともに、事業団施設で蓄積されたノウハウや専門的な支援技術等の外部への普及啓発を図るため、毎年利用者支援における先駆的･効果的な取り組み等の事例研究発表会を行っております。

今年度の日程及び内容につきましての詳細は以下のとおりです。

【児童養護施設】
1　日時　平成28年1月29日（金曜日）
　　午前10時から午後5時まで　※開場　9時30分
2　会場　豊島区民センター6階　文化ホール
　　（イーストステージ･いけぶくろ）
　　東京都豊島区東池袋1-20-10
　　東京メトロ丸の内線池袋駅東口または、JR池袋駅東口から徒歩5分
3　開催内容
　(1) 基調講演
　　題目：「児童養護施設からの自立について（仮題）」
　　講師：立教大学コミュニティ福祉学部　学部長　浅井　春夫　氏
　(2) 事例発表
　　児童養護施設3事例

【障害者（児）施設】
1　日時　平成28年2月25日（木曜日）
　　午前10時から午後4時30分まで　※開場　9時30分
2　会場　野方区民ホール（中野区立区民ホール）
　　東京都中野区野方5-3-1　野方WIZ地下2階
　　西武新宿線野方駅下車　南口から徒歩3分
　　JR中央線中野駅より関東バス野方駅行き約15分　終点下車すぐ
3　開催内容
　(1) 基調講演
　　題目：「利用者の意思を尊重した支援-障害者虐待の防止に向けて-」
　　講師：関西福祉科学大学教授　津田　耕一氏
　(2) 事例発表
　　障害者（児）施設6事例

申込方法（※どなたでもご参加頂けます。参加費は無料です。）
当事業団のＨＰ内「お知らせ」よりお申込みください。また。当日は参加申込書もしくは応募フォームを印刷したものを持参し、受付までご提出ください。

東京都社会福祉事業団 HP：http://job-gear.jp/jigyodan/index.htm

参加申込〆切：児童養護施設　平成28年1月18日（月曜日）・障害者（児）施設　平成28年2月12日（金曜日）

お問い合わせ先
担当：佐藤、神蔵　TEL: 03 － 5291 － 3614　FAX 03 － 5291 － 3616

直営による運営がスタートしました！東村山福祉園より「グループホームきらり」のご紹介

グループホームきらりの全景

白石理事長の訪問

利用者の皆様、お一人おひとりの「その人らしい暮らし」を実現するために

東村山福祉園の「グループホームきらり」は、平成 24 年 5 月に東京都社会福祉事業団により設立されました。
約 3 年間、東大和市内にある NPO 法人に生活支援員業務を委託し運営していましたが、NPO 法人との契約満了に伴い、平成 27 年 4 月より東京都社会福祉事業団の直営による運営がスタートしました。
NPO 法人から引き継いだ後は、東村山福祉園がこれまで培ってきたノウハウを最大限活用し、リスクマネジメントによる事故防止や感染症対策、虐待防止悉皆研修の実施など体制強化を進めてきています。また、生活棟の職員が応援に入るなどして、バックアップする体制も構築しました。
グループホームきらりには、現在、男性 6 名が入居されており、皆様の個性があふれる楽しい暮らしを送っています。

（グループホームきらり　世話人　野村　悠介）

直営による運営開始から半年の間、入居されている利用者の皆様との関係性を深めていきながら、少しずつご意向を伺い、また、ご家族や成年後見人の皆様にもご協力いただきながら利用者の皆様、お一人おひとりの「その人らしい暮らし」を実現するために様々な取組を行ってきています。

毎日の食事への工夫

ある日の食事風景

食事は、職員の心を込めた手づくりを提供しています。食事が出来上がるまで対面キッチンの前で、職員の調理する様子を見ながら、待ち遠しそうにしています。入浴や余暇時間は利用者の皆様のペースに合わせて支援をさせていただいています。
利用者の皆様が日々の暮らしの中で特に楽しみにされている食事の場面を充実させたいと考え、希望を募り、ピザをデリバリーで注文したり、鍋を囲んだり、海鮮丼に舌鼓を打ったりしています。

余暇活動の充実

6 月の銭湯外出を皮切りに、7 ～ 9 月は 3 か所のお祭りを楽しみ、9 月 21 日には初めての遠出の全体外出（相模湖プレジャーフォーレスト）に行き、バーベキュー、遊園地、温泉を楽しんできました。
現在は、今年度の大きな目標である 1 泊 2 日の旅行を実現するために準備をしています。
温泉でゆっくりされたい方、新鮮な魚を食べたい方、周辺観光を楽しみたい方、など様々なご要望を取り入れて、充実したひと時を過ごしてきたいと思います。

バーベキューを
楽しんでいます！

平成 27 年度事業団職員提案表彰式を開催しました

最優秀賞	**ＯＪＴの基盤となる児童支援のルールの整理** 支援向上ＰＴ（中原孝太郎さん ほか１２名）
優良賞	**自立する子どもたちへのプレゼント「困った時、誰かと繋がれるように」** 養護係職員グループ（高橋謙一さん ほか４名）
優良賞	**菓子製造業等免許取得による事業展開** ふぁーまーず班（後藤恵美子さん ほか４名）
特別賞（奨励賞）	**「強度行動障害利用者支援手順書」の活用について** 活動支援係Ａ２グループ（村山達治さん ほか３名）
特別賞（奨励賞）	**利用者本位のサービスに向けた心情図を活用した支援の取組** ９係９棟（森川健志さん ほか８名）
特別賞（努力賞）	**目に見える家庭的養育の推進（野菜栽培→収穫→調理を通した支援向上への取組）** けやき寮（佐野はるみさん ほか２名）

記念写真（上段左側から七生福祉園　岡村知朗 さん、小林義夫 さん、小山児童学園　高橋係長
東村山福祉園 村山係長、八王子福祉園 森川建志 さん、
下段左から　石神井学園　中原係長、白石理事長、加藤事務局長、片瀬学園　長谷川佑佳 さん）

12 月 16 日、平成 27 年度事業団職員提案表彰式を開催しました。
各施設から推薦された全 52 件の職員提案について、「着想性（業務の改善に気付く発想力）」、「独創性（創意工夫の独自性）」や、「プレゼンテーション」など 12 項目の基準によって審査されました。多様な職務改善の取組の中から、従前どおり利用者支援の向上に貢献した取組に加え、今年度は課題解決へのプロセスが高く評価された取組、チーム支援の体制構築への考案に関する取組が多く入賞しました。事業団職員提案表彰は、職員の一人ひとりの日々の実践のなかから生まれた素晴らしい取組を組織全体で共有し、さらに推進・定着させることにより、事業団経営や利用者本位のサービスの提供の向上・改善につなげる有効な制度でもあります。来年度も事業団経営に対する創造的思考と参画意識やモチベーションを高めるため、表彰を実施してまいります。

地域公開講座のご案内

たくましく生きる

～嵐を乗り越える子ども達を育てる～

海洋冒険家
白石　康次郎 氏

石神井学園では地域に根ざした児童養護施設として、地域住民の方々との交流を図りつつ、施設を理解していただく場と地域子育て支援の一環として毎年「地域子育て公開講座」を開いております。
今回は「たくましく生きる～嵐を乗り越える子ども達を育てる～」と題し、白石康次郎氏をお招きし開催する運びとなりました。
白石氏は少年時代に船で海を渡るという夢を抱き、当時 26 歳で、ヨットによる単独無寄港無補給世界一周の史上最年少記録（当時）を樹立し、その他数々のヨットレースやアドベンチャーレースでも活躍されています。また、児童養護施設への支援活動にも長年従事しており、子供達に自然の尊さと「夢」の大切さを伝える活動に積極的に取り組んでいます。
年々、子どもを取り巻く環境は変化を加速させ、いじめ・犯罪の低年齢化・子どもの貧困の格差・ネットでのトラブル等大人が追いつけていない状況があります。その中で、時代の荒波に飲まれず、自分自身の夢を見つけ、ひたむきに追い続ける子どもに育てるには今大人は何が出来るのか、氏の講演を通し皆様と共に考えていきたいと思います。

日　　時　平成 28 年 1 月 25 日（月曜日）
開　　場　12 時 30 分
開　　演　13 時～ 14 時 30 分
会　　場　ゆめりあホール 6 階
住　　所　練馬区東大泉 1-29-1　ゆめりあ 1
アクセス　西武池袋線大泉学園駅北口より徒歩 1 分
入場料無料（定員 140 名）

申し込み方法　※どなたでもご参加頂けます
東京都石神井学園の HP 内の「お問合せ」よりお申込みください
東京都石神井学園 HP：http://shakujii-gakuen.tokyo/

お問い合わせ先
東京都石神井学園　担当：森・中原　TEL　**03−3996−4191**

「平成28年度採用内定者交流会」を開催しました！

採用内定者を対象とした交流会を 11 月 14 日に池袋にて開催しました。内定者の皆さんに、事業団の各施設で働く先輩職員との交流を通じて、職場の雰囲気や業務の様子など知っていただき、安心感を持って入職してもらうことを目的としており、47 名の採用内定者の方にご参加いただきました。グループに分かれて児童養護施設、障害施設それぞれの職員との意見交換を行い、和やかな雰囲気の中、率直な質問も飛び交い、「実際に現場で働いている先輩職員の話を聞き、働くイメージがわいてきた」「一緒に働く人の雰囲気を知ることができて安心した」などの感想が寄せられました。本会の企画・運営を行っていただいた事業団人材確保・育成委員会の委員の皆様どうもありがとうございました。

編集後記

先日担当させていただいた研修で、ある外部講師の先生がおっしゃいました。「プレゼンテーションの能力も私たち専門職の力量です。」。また、職員提案表彰式の折、表彰者の言葉の中に「私たちが実践する利用者支援は多くの場合、一瞬一瞬の積み重ね、目に見える形となるには時間がかかる。形として示したり、共有するのはなかなか難しい。」。日常生活の中ですら、正しく「伝える」ことは難しいものと感じています。今回の事業団通信には、現場の職員からの原稿を多く掲載させていただいています。事例研究発表会、地域公開講座等のご案内もさせていただきました。事業団を知っていただく機会として、足を運んでいただければ幸いです。今年も皆様からのお声を頂戴しながら、一歩ずつ前進していきたいと思います。よろしくお願いします。

（事務局管理係　北裏）

社会福祉法人 東京都社会福祉事業団
広報誌「事業団通信」Vol.4　平成28年1月発行

発行元 / 社会福祉法人東京都社会福祉事業団 本部事務局
〒169-0072　東京都新宿区大久保 3-10-1-201
TEL03-5291-3600/FAX03-5291-3616
http://job-gear.jp/jigyodan/index.htm　東京都社会福祉事業団　検索